

# こどものまなざし



2022年11月  
<5号>

～遊びを広げる～

見えにくさを抱えるお子さんの中には、体を動かしたり自分で移動したりすることに消極的だったり、怖がってしまったりするお子さんもいます。空間の広がりや物の位置関係を把握することに難しさを感じることもあるからかもしれません。そんなときは、お子さんのペースや気持ちを大切に、一緒に活動を楽しめるように誘ってみるようにします。「ほら、目の前にボールがあるよ。」とか、「手をつないで、一緒に立ってみようね。」といった声かけは、子どもが安心して活動に取り組みやすくなる働きかけになります。この時期のお子さんには、自分でやってみようという気持ちを育てるために、楽しいと感じられる経験をたくさん共有していきましょう。

また、お子さんが自分の体がどのように動いているかを実感したり、方向などの位置関係を把握したりする力を身につけるには、大人と一緒にダイナミックに体を動かすことが重要です。一緒にトランポリンをやったりリズム遊びをしたり、すべり台を楽しんだりできるといいですね。お子さんによっては及び腰になることもあると思います。そのため、ここでも事前に「これから一緒にピョンピョンするよ。」とか、「一緒にすべり台ゆっくりすべってみようね。」といった声かけがあると、安心して参加しやすくなります。こうした活動は、自分の手や足がどの位置にあってどのように動かしているのかを分かるようになっていたり、思い描いたとおりに動かせるようになっていたりするための土台となります。そして、今後自分で靴を履いたりシャツにそでを通したりといった細かな動作を行うにあたっての重要な役割を果たします。

とはいえ、こういった遊びが自分の子どもに合うのか分からなかったり不安だったりすることがあると思います。右に挙げたようなポイントを参考にしてみてください。親がやらせたいことと子どもがやりたいことの間には、ときにずれが生じることもありますが、答えは子どもの笑顔の中にあります。子どもにとって意味のある活動は意欲的に取り組みます。大人から見ると退屈ですぐに飽きてしまうように見えても、子どもにとっては大きな成長を遂げるための大切な遊びと捉えて一緒に楽しめるとよいですね。

本校の乳幼児教育相談では、相談担当2名がお子さんの目の見え方に心配のある保護者さんの相談に応じています。0歳から年長さんまでのお子さんが通っていますので、部屋はお子さんの好みや発達に合わせて、オーダーメイドで設定しています。また、保育所や幼稚園に在籍されているお子さんもあり、必要に応じて在籍する園等を担当者が訪問させていただき、お子さんに合わせた過ごし方を園の先生方に提案させていただくこともあります。

- ✓ 好きな遊びやおもちゃに誘う
- ✓ 安心して一緒にできる活動を見つけて増やしていく
- ✓ 事前に今からやることを予告して見通しを持てるようにする
- ✓ 何より、子どもが笑顔で一緒にできるように！

神奈川県立平塚盲学校 乳幼児教育相談

**アイキッズルーム**

月～金 10:00～12:00、14:00～16:00

**0463-31-1341**

“乳幼児教育相談の申し込み”と電話でお伝えください。

担当（下原・小川）が対応いたします。

